

一般財団法人京都ボーイスカウト振興会
平成 27 年度（平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日）
事業報告

1. はじめに

当該会計年度は、京都にボーイスカウトが誕生し 100 周年を迎えました。大正 4 年の大正天皇即位の礼に合わせて、京都市内の各小学校校長が学童 1～2 名ずつ推薦し、第一期生は 101 名の団員で、「京都少年義勇軍」として称して、大正 4 年 1 月 1 日に平安神宮で結団式が行われました。

この 100 周年の機会を活用し、地域社会の方々に、青少年の健全な育成に繋がるボーイスカウト活動を再認識して頂くため、広報活動を強力に推進しました。京都府民・市民に広く告知するために、1 月 1 日付の京都新聞朝刊 1 5 段カラー版で、告知広告を掲載しました。

告知目的は、創立 100 周年を記念して、地域社会に対して、京都ボーイスカウト活動の変遷や、現況を紹介し、ボーイスカウト活動は『国際的な広がりのある、グローバルな地域の教育力』としての認知度を高めたいということと、本会の法人会員様のご法人名の一覧表(55 法人)を掲載し、日頃より財政的な支援を頂戴していることに感謝する紙面としました。

また、第 23 回世界スカウトジャンボリー (23WSJ) が山口県で開催されました。世界 155 の国と地域から 33,600 人余の青少年が集まって、7 月 28 日から約 2 週間に亘って開催され、京都からは 164 名のスカウトとスタッフを派遣しました。また、ジャンボリー開催期間前後に世界各地から集まったスカウトは、日本各地に分散し、ホームステイや日本探訪を行いました。京都にはイギリスから 80 名、イタリアから 320 名、スウェーデンから 200 名の受入れ、ホームステイや地元スカウトとの交流会が行われ、振興会から助成金を交付しました。

指導養成のためのプログラム企画運営事業においては、平成 28 年 1 月 10 日にスカウト報告会を京都テルサ大会議室で開催し、115 名の参加がありました。23WSJ および韓国派遣について 6 名から報告がありました。本振興会の事業の要とも言える「国際交流」の実績が参加者の体験談として語られました。

さらに、賛助会員の増強を行い、14 法人の加入で賛助会費 510 千円の収入を得え、当該会計年度は、賛助会費収入が 2,450 千円と前年度比+370 千円となりました。

2. 事業報告の内容

(1) ボーイスカウト行事等に対する助成協力

(ア) 助成の対象

京都府下において、ボーイスカウト運動の趣旨を理解し、組織的にボーイスカウト運動を行う団体として、京都連盟を助成対象とした。

(イ) 助成の趣旨・用途

ボーイスカウト運動にかかる講習・実修・研修・キャンプに要する経費、世界スカウトジャンボリー・日本ジャンボリー・京都ジャンボリー及びベンチャースカウト大会へのスカウト派遣に要する経費、その他ボーイスカウト運動に欠くことができない重要な行事のために必要となる経費

(ウ) 事業実績

事業費として、総額 2,800 千円を支出した。内訳は 100 周年事業として、1,000 千円、世界スカウトジャンボリーとして、500 千円を助成した。残額の 1,300 千円は、京都連盟の進歩費、国際費、安全費、環境費、コミッショナー費、イベント費、ボーイスカウト講習会及びウッドバッジ実修所・研修所運営費等に必要となる事業費の一部に対して助成した。

(参考) ボーイスカウト講習会の実施状況

名称	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回
期日	6 月 21 日	10 月 18 日	11 月 29 日	3 月 6 日
会場	宇治市 中央公民館	本門佛立宗 本山宥清寺	舞鶴市 由良川学園	上一乗寺集会場
参加者	35 名	19 名	8 名	23 名

(参考) ウッドバッジ実修所・研修所の実施状況

名称	団委員研修所 京都第 11 期	WB 研修所 B V S 京都第 10 期	第 1 回 安全セミナー	WB 実修所 C S 第 160 期	第 2 回 安全セミナー
期間	5 月 3-5 日	5 月 3-5 日	6 月 7 日	9 月 20-23 日	2 月 21 日
会場	京都市野外活動 施設 花背山の家	京都市野外活動 施設 花背山の家	京都連盟 会議室	京都市静原 キャンプ場	京都連盟会議室
参加者	12 名	21 名	23 名	14 名	7 名

(2) 青少年の育成を目的とした自然体験活動のためのキャンプ企画事業

(ア) 体験活動の所在地

広河原野営場：京都市左京区広河原尾花町 27 番地

(当法人所有：山林 22,559 平方メートル、原野 521 平方メートル)

(イ) 体験活動の運営主体

京都連盟

(ウ) 体験活動に参加が予定されている対象者

青少年の育成を目的とした組織団体に無償提供する。

(エ) 体験活動に参加した対象者、使用月日、使用人数等

使用者	使用月日	使用人数	備考
山開き	4月4-5日	48人	サポート委員会
野営場整備	7月18-19日	43人	サポート委員会
京都第7団	8月13-16日	24人	B S隊
京都第45団	8月19-23日	28人	B S隊
冬こもり	11月28-29日	32人	サポート委員会
京都第47団	1月30-31日	20人	B S隊
合計	17日	195人	

(オ) 事業実績

広河原野営場建物の減価償却費 80,730 円・固定資産税 4,300 円が主な費用実績である。

(カ) 広河原野営場近隣における舎営施設土地建物の取得又は賃借について

3年前に京都西ライオンズクラブのご厚意で、バス・トイレ等の設備を新装し、利用面での利便性が向上したにも関わらず使用実績が向上しないので連盟との十分な検討が必要である。

(3) 指導者養成のためのプログラム企画運営事業

(ア) 趣旨

青少年の育成を指導する人としての素養を涵養するために、企業人、教育者等の有識者を講師に迎え、青少年の育成を指導する立場にある一般の参加者に対して、講演会を実施するものです。

(イ) 講演会事業費実績

平成 28 年 1 月 10 日にスカウト報告会を京都テルサ大会議室で開催し、115名の参加がありました。23WSJ および韓国派遣について6名から報告があり、本振興会の事業の要ともいえる「国際交流」の実績が参加者の体験談として語られました。

(4) 国際交流・国際貢献活動、社会に役立つ事業活動、環境・まち美化活動支援のための共催事業

(ア) 国際交流・国際貢献活動支援

ボーイスカウトを対象に海外キャンプへの派遣、国際協力プロジェクトの派遣実施等

23WSJ 関連のほかに、姉妹連盟を締結している韓国・京畿南部連盟に1月7日～11日、スカウト4名・指導者3名が派遣され、相互の国際交流を促進しました。

(イ) 社会に役立つ事業活動支援

一般青少年を対象にした事業は、スカウト仲間を増やすためにも、各地区・各団で工夫したプログラムが実施され、この一般向けの案内のためにホームページを活用しました。

全国都道府県対抗女子駅伝競走大会が1月17日、視覚障害者マラソン京都大会が2月7日、全国車いす駅伝競走大会が3月13日にそれぞれ実施され、走路沿道の自主整理員として多数のスカウトと指導者が奉仕しました。

(ウ) 環境まち美化活動支援

「みどりの募金」活動には、各団が春と秋に奉仕しました。また、京都市「まち美化運動」には、例年「世界の京都・まち美化市民総行動」の行事に参加してきましたが、本年度は創立100周年記念式典と開催日（11月1日）が重なり、参加できませんでした。しかし、100周年事業として実施したスカウトラリーは、京都一周トレイルコース全長約70kmを全団が分担して清掃を行い、式典会場に展覧されたコースの道標の拓本は壮観でした。

(5) ボーイスカウト運動の振興及び普及宣伝事業

(ア) 地域の不特定多数の青少年に対するボーイスカウト運動の普及宣伝を図る事業として、ホームページを通じて、スカウトの日（ゴミ拾い等の奉仕活動を実施する日）等に地域の青少年の参加を促す。

(イ) ボーイスカウト・指導者等のボーイスカウト関係者、維持会員、並びに不特定多数の皆様に対して、ホームページを通じて、当法人の事業計画等・京都連盟の事業計画等を適時に適切な範囲でディスクローズし、健全な運営を行う。

(ウ) ボーイスカウト運動の振興を図るために維持会員及び潜在的な維持会員に対して、ホームページを通じて、会費の協力を依頼する。

(エ) 事業費実績

事業費は、2,831,706円（京都新聞掲載料2,311,200円、世界・京都スカウト交流関連費131,706円、ホームページ運営改革費388,800円）を支出した。

3. 財源の確保（賛助会費の入金状況）

賛助会費の入金内訳は以下の通りです。

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
賛助会費	2,230 千円	2,310 千円	2,190 千円	2,080 千円	2,450 千円

平成 27 年度は、賛助会員の増強を行い、当該会計年度は、賛助会費収入が 2,450 千円と前年度比+370 千円となりました。

引き続き、役員の方には、21世紀を担う青少年の健全な育成の場としてのボーイスカウト運動を、地域社会の方々の認識を高めるのにご尽力をいただき、広く財政的援助を頂戴していただけるように努力して頂き、維持会員数の拡大に一層のご協力をお願いする次第であります。

以上